

シラバスからみた米国の資料保存教育

上 田 修 一

1. はじめに

「図書館資料保存」(preservation)は、ひとかたまりの知識であるとともに、実務を伴っている。さらに外側は、資料保存の重要性の主張という膜に包まれている。資料保存の知識や実務は、しばしば保存の重要性の主張と一体化して論じられることが多い。

以下では、実務や見解とは切り離し、資料保存がどのような内容と構造を持つのかを図書館員教育の側面から明らかにしたい。具体的には、米国の大学院の授業で用いられるシラバスを比較検討する。

米国の大学院の図書館情報学課程における資料保存教育を対象とするので、最初に教育制度や認定などいくつか前提となることから概説する。

2. 図書館員養成課程における資料保存教育

2.1. 日本の司書養成

よく知られているように、日本と米国では、図書館員養成の課程は大きく異なっている。日本では、公共図書館員に関して法律で資格が定められ、個人を対象として司書という資格を与えている。具体的には、「図書館法」の中で、公立図書館と私立図書館において図書館の専門的事務に従事する司書とは、大学又は高等専門学校を卒業し、図書館に関する科目を履修、あるいは司書の講習を修了した者とされている。

履修すべき科目群や単位などは、図書館法施

行規則において示されている。科目群は、2単位の必修科目11科目、1単位の選択科目7科目から構成されており、資格を得るには13科目24単位の修了が必要である。各科目の詳細については、文部科学省が設けた、「これからの図書館の在り方検討協力者会議」の「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について(報告)」(2009年2月)の別紙に記述されている¹⁾。ちなみに、「保存」という語は、必修科目「図書館情報資源概論」の説明文の中にみられる。従って、資料保存は「図書館情報資源概論」の中で教えることになる。しかし、「図書館情報資源概論」では、図書館資料の説明や選書に授業時間の大半を充てるので、資料保存に多くの時間を割くことはできない。ただし、選択科目には、授業内容の詳細な指示がないので、受講者は少ないものの、ここで資料保存を大きく扱うことは可能である。

大学に新しく司書養成課程を設置する場合には文部科学省に課程の概要、科目の一覧、各科目のシラバス、実習施設一覧などを届け出なければならない。届け出の際に、文部科学省の担当者から様々な指導を受けることになる。2015年現在、212大学に司書資格を得ることのできる科目群が開講されている²⁾。

最近では四期制の導入が図られつつあるものの、日本の多くの大学では依然として、前期と後期あるいは春学期と秋学期からなる二期制をとっている。二期制では、各科目は、4~5か月

にわたるどちらかの学期に配当される。学生は、科目の履修を決め履修申告をすると、週 1 回、計 15 回程度の標準 90 分の授業を受講し、その科目に合格すると 2 単位を得ることができる。

授業科目の担当者は、あらかじめ 15 回の授業内容を計画し準備する必要がある。「大学設置基準」には、「第 25 条の 2 大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする」という条項があり、文部科学省は、近年、シラバスを詳細に記述するよう各大学に求めている。シラバスは、科目の内容を記述したものであるが、従来は、数行の内容を記述した講義要綱などで済まされてきた。文部科学省は、以下のように説明している³⁾。

授業科目の詳細な授業計画のことをシラバスと言ひ、授業名、担当の教員名、講義の目的、到達目標、各回の授業内容、成績評価の方法や基準、準備学習の内容や目安となる時間についての指示、教科書・参考文献、履修条件などを記載することが期待されます。シラバスは、学生に科目選択のための情報を提供する役割のほか、授業期間全体を通じた授業の進め方を示すとともに、各回の授業に求められる予習についての具体的指示を提供するという役割があり、後者の役割を充実していくことが重視されています。

最近では、シラバスは、その科目を履修する学生と大学および科目担当者間の契約という側面が強調されるようになり、授業の途中で変更するには履修学生の同意を得る必要があると認識されるようになっている。

大学では、第三者評価である認証評価機関による認証評価が定常化した。評価の際にシラバスが不備であるという指摘を受けることを避け

るため、各大学はシラバスの整備に注力してきた。ここで述べてきたようなシラバスの事情に疎い教員の中には、シラバスの提出を怠ったり、不十分な記述しかしない者がおり、学科や学部の責任者や学務担当職員は、事前の確認に時間を費やす。そのために、次第にシラバスを確認する期間が長くなり、その結果、次年度のシラバスの提出時期は、授業開始のはるか前の短い期間となっている。

科目単位で作られるシラバスに対し、学科や学部の科目構成、単位配分等を反映した科目名と単位からなるリストをカリキュラムと呼び、各大学の学則として定められている。大学は、入学者に対して提供するカリキュラムを提示し同意を得ておかなければならない。やはり、学生と大学間との契約であるので、カリキュラムは、学生が卒業するまで 4 年間に変更できない。

最近では、カリキュラムの各科目に簡単な講義内容を記述した科目説明 (course description) を付けられることも行われている。科目の担当者は、科目説明に従い、その科目のシラバスを作成することになる。長い間、大学のカリキュラムは放任的な状況に置かれてきたが、このように学生と大学との間での事前の取り決めであるという考え方が広まりつつある。

大学の科目における授業内容を事前に計画的に編成し、各回の内容と事前に読む必要のある文献を記述したシラバスを、履修申告前に学生に提示するという方式は、すでに米国では長く行われてきている。分野や科目によってシラバスの意義は異なるが、専門職の養成課程にあつては、まとまった知識を不足のないように教授する必要があるので、詳細なシラバスは不可欠である。

2.2. 米国の図書館情報学課程

米国では、図書館員養成に国は関与せず、ま

た国家資格もない。民間団体であるアメリカ図書館協会 (American Library Association: ALA) が、各大学に設けられた図書館情報学修士課程の認定 (accreditation) を行い、それらの認定された課程で得た修士学位が図書館員となる際の条件となっている。ALA が認定するのは、大学ではなく課程である。課程は、日本で言う研究科、学科、専攻、プログラムなどが該当し、教育の最小単位であり、科目の集合体である。

2016 年 2 月現在、ALA が認定した課程は、59 課程であり、米国 50 課程、カナダ 8 課程、プエルトリコ 1 課程である⁴⁾。米国の ALA 認定課程は、伝統校よりも大規模な州立大学に多く設置されている。また、認定事業が始まったのは 1924 年であり、これまで延べ 90 課程が認定されてきた。開始以来、現在まで連続して認定を受けているのは、イリノイ大学アーバナシャンペーン校、ウィスコンシン大学マディソン校、シモンズカレッジ、ドレクセル大学、プラットインスティテュート、ワシントン大学シアトル校の 6 課程である。

ALA の認定委員会は、認定作業のために認定基準を作っている。認定基準は、質的な内容であり、科目名や量的基準は含んでいない。これまで 2008 年版の基準が使われていたが 2015 年に改訂されている⁵⁾。

図書館情報学課程には、いくつかの変革の動きがあり、例えば、「アイスクール (iSchool)」はその一つである。これは、十数年前から米国で始まり、国際的な広がりを見せている運動であり、information school と名乗って、従来の図書館情報学や情報学から離れ、情報 (コンピュータ) の分野への特化を志向している。カリフォルニア州のサンノゼ州立大学は、2015 年にアイスクールに移行した。アイスクールのウェブサイトによると 2016 年 2 月現在、全世界に 65

課程、米国には、27 課程のアイスクールがある⁶⁾。しかし、そのうち 20 課程 (74.1%) は ALA の認定課程となっている。課程の運営から見るとアイスクールでは、学生募集に不安があり、図書館員養成を無視できないというジレンマの存在を窺うことができる。なお、アイスクールのリストには、日本では、筑波大学大学院の図書館情報メディア研究科が入っている。

3. 資料保存教育一覧にみる科目状況

ALA の図書館資料およびテクニカル・サービス部会 (Association for Library Collections & Technical Services : ALCTS) は、『資料保存教育一覧 (Preservation Education Directory)』を編集し、ウェブサイト⁷⁾に載せるとともに、PDF 版⁸⁾を公開している。1980 年代以前から作成されてきており、最新の PDF 版は、10 版となっている。なお、ウェブ版が最新である。

『資料保存教育一覧』は、資料保存の教育訓練の機会にはどのようなものがあるかに関して志望学生や図書館員への情報提供を目的としており、継続訓練のプログラムと図書館情報学修士課程を掲載している。

この一覧で紹介されている図書館情報学修士課程は ALA 認定課程である。図書館情報学修士課程別に課程名と連絡先、該当科目の科目名、科目説明、事前履修科目、単位が列挙されている。『資料保存教育一覧』は、資料保存と資料保護を中心としているが、書物史、貴重書、写本、文書館、デジタル化などの科目を含んでいる。

例えば、ニューヨーク州立大学アルバニー校情報学部については、電子記録管理、本と印刷の歴史、記録情報の歴史、デジタル図書館、文書館と図書館の資料保存管理、貴重書、公文書と写本、の 7 科目が掲載され、首都ワシントンのカトリック大学アメリカ校図書館情報学科に

は、文書館管理、資料保存、デジタルキュレーション、デジタル図書館の基礎、文化遺産所蔵機関の歴史と理論、特別コレクション、貴重書、音楽図書館、宗教文書館、デジタル人文学などの資料保存関連の多彩な科目が設置されていることがわかる。なお、デジタルキュレーションは、デジタル資料の発生から保存までのライフサイクルを扱う科目である。

表 1 に、この『資料保存教育一覧』（ウェブサイト）をもとに、米国の ALA 認定課程の資料保存関係科目の設置状況を示した。

ALA 認定課程の中で、サウスフロリダ大学、テキサスウーマンズ大学、ノースカロライナセントラル大学、ノースカロライナ大学グリーンズボロー校はこの一覧に載っていない。掲載科目を、資料保存、本と印刷、デジタル図書館、文書館の四項目に分けて有無を示している。ここで「資料保存」に区分したのは、名称に「preservation」を含む科目である。

三科目以上の該当科目がある場合は、「◎」としている。これにより重点の置き方がある程度明らかになるが、設置科目数の多い大規模大学では、該当科目は多くなる。項目別にみると設置状況は以下のようになっている。

資料保存	40 課程
本と印刷	26
デジタル図書館	30
文書館	33

『資料保存教育一覧』の前の版である第 9 版は 2011 年に出版され、2012 年に改訂されている。この第 9 版と第 10 版では、収録対象が幾分異なるので、厳密な比較はできないが、前版では、「資料保存」の科目を持つ課程数は 35 課程だった。つまり、資料保存科目は、この間に増加しており、第 9 版ではなかった、ウィスコンシン大学マディソン校、ウェイン州立大学、フロリ

ダ州立大学に第 10 版では資料保存科目の掲載がある。一方、第 9 版に資料保存科目の掲載があり、第 10 版で消えたのは、メリーランド大学カレッジパーク校の一例のみだった。

表 1. アメリカ図書館協会の認定課程の資料保存関係科目の状況

大学名	課程名	資料保存	本と印刷	デジタル図書館	文書館
アイオワ大学	School of Library and Information Science	○	◎		
アラバマ大学	College of Communication and Information Sciences	○	◎	○	
アリゾナ大学	School of Information Resources & Library Science	○		○	○
イーストカロライナ大学	Master of Library Science	—	—	—	—
イリノイ大学アーバナシャンペーン校	Graduate School of Library and Information Science	○	○	○	○
インディアナ大学ブルーミントン校	School of Library and Information Science	○	◎	○	○
ウィスコンシン大学 マディソン校	Library and Information Studies	○		○	○
ウィスコンシン大学 ミルウォーキー校	School of Information Studies	○	○		◎
ウェイン州立大学	School of Library and Information Science	○	○	◎	○
エンボリア州立大学	School of Library and Information Management	○			○
オクラホマ大学	School of Library and Information Studies	○			○
カトリック大学 アメリカ校	School of Library and Information Science	○	○	○	○
カリフォルニア州立大学	Graduate School of Education & Information Studies	○	○	○	○
クラリオン大学 ベンシルベニア校	Library Science Department	○			
ケンタッキー大学	School of Library and Information Science	○			○
ケント州立大学	School of Library and Information Science	○		◎	○
サウスカロライナ大学 コロンビア校	School of Library & Information Science	○	○	○	
サウスフロリダ大学	School of Information				記載なし
サザンミシシッピ大学	School of Library and Information Science	○	○		○
サンノゼ州立大学	School of Information	○	○		○
シモンズカレッジ	School of Library and Information Science	○	○	○	○
シラキュース大学	School of Information Studies	○		○	○
セントキャサリン大学	Master of Library and Information Science Program	○	○		
セントジョーンズ大学	Library and Information Science	○	○		
テキサスウーマンズ大学	School of Library & Information Studies				記載なし
テキサス大学オースティン校	School of Information	◎		◎	◎
テネシー大学 ノックスビル校	School of Information Sciences			○	○
デンバー大学	Library and Information Science Program	○			○
ドミニカン大学	Library and Information Science	○	◎		○
ドレクセル大学	The College of Computing and Informatics			○	○
ニューヨーク市立大学 クイーンズ校	Graduate School of Library and Information Studies	○		○	
ニューヨーク州立大学 アルバニー校	Department of Information Studies	○	○	○	○
ニューヨーク州立大学 パッファロー校	The Department of Library and Information Studies				○
ノースカロライナセントラル大学	School of Library and Information Sciences				記載なし
ノースカロライナ大学 グリーンズボロー校	Library & Information Studies				記載なし
ノースカロライナ大学 チャペルヒル校	School of Information and Library Science	○	○	○	○
ノーステキサス大学	Department of Library and Information Sciences	○	○	○	○
バルドスタ州立大学	Library and Information Science Program	○	○	○	
ハワイ大学	Library and Information Science Program	○	○		
ピッツバーグ大学	School of Information Science	○	○	○	◎
ブライトインスティテュート	School of Information and Library Science	○		○	○
フロリダ州立大学	School of Information	○		○	○
ミシガン大学アナーバー校	School of Information	◎		◎	◎
ミズーリ大学 コロンビア校	School of Information Science & Learning Technologies		○	○	
メリーランド大学カレッジパーク校	College of Information Studies			○	◎
ラットガーズ ニュージャージー州立大学 ニューブランズウィック校	Department of Library and Information Science	○		○	○
ルイジアナ州立大学パトナージュ校	School of Library & Information Science	○	○	○	◎
ロードアイランド大学	Graduate School of Library and Information Studies	○	○		○
ロングアイランド大学CWポストキャンパス	Palmer School of Library and Information Science	○	○	○	○
ワシントン大学シアトル校	The Information School	○			○

以上から、米国では、資料保存科目は標準的に設置する科目と見なされており。図書館情報学課程にはアイスクール志向、アーカイブやデジタル資料への関心の強まりがみられるものの、その影響を受けて資料保存科目が減少するという傾向は見られない。

なお、ここでは科目を単位としているが、科目が設置されていない場合もあるので、科目がないため資料保存教育を全く行っていないと言うことはできない。

4. 資料保存科目のシラバス

図書館情報学課程の中で資料保存科目のシラバスがウェブ上で閲覧できる例を調べた。日本と同じく、シラバスの公開状況は、大学や担当者によって異なり、最新のシラバスを全てウェブ公開している例は少ない。また、公開されるシラバスの記載内容も精粗がある。しかし、資料保存科目に関して 10 ページを超える充実した内容のシラバスが公開されている例がいくつもみられる。

こうしたシラバスには、科目名、開講時期、

教室、科目担当者名、連絡先、オフィスアワー、授業の目的、科目説明、事前履修科目、SLO、受講者に期待する態度、障害学生への対処、評価方法と配点、採点基準、履修に必要な技術(スキル)、教科書、課題の出題予定、推薦資料、関連ウェブサイト、各回別の詳細な内容説明と参考文献が記載されている。SLOとは「学生が身につける能力(Student Learning Outcomes)」とよばれており、授業で得ることのできる能力の記載である。例えば、その科目を履修することによって批判的思考や共同作業でのリーダーシップなどの能力が高まるなどと記載する。「受講者に期待する態度」には、授業への出席、討議への積極的参加などと記述する。

各回の授業内容に関する記述では、授業内容の短い説明の他に授業に関係する必読文献と参考文献のリストが掲げられている。

日本では、シラバスの整備の進んだ大学であっても、科目名、科目担当者名、授業の目的、科目説明、評価方法と配点、教科書、授業計画が記載されているに過ぎないので、日米ではシラバス記載内容にはかなり大きな違いがあり、それは、授業の仕方の違いでもある。

表 2. 資料保存科目の内容

大学名	オクラホマ大学	ノースカロライナ大学 チャペルヒル校	ハワイ大学マノア校	ロングアイランド大学
科目名	Preservation of Information Materials	Preservation of Library and Archive Materials	Preservation Management	Introduction to Preservation
年	2013年	2013年	2015年	2014年
担当者	職 教員	職 図書館員	職 図書館員	職 図書館員
所属	同大学准教授	同大学図書館	同大学図書館	コロンビア大学図書館
授業時間	160分	150分	160分	110分
課題文献	23点	32点	54点	65点
各回内容	1回 授業の説明, 概説	授業の説明	授業の説明, スローファイアー	授業の説明, 概説
	2回 資料保存の歴史	紙の資料	保存環境, 虫害, 空調	紙, 本, 製本
	3回 文化遺産	写真と非印刷資料	建物, 書庫, 図書館資料の取り扱い	音声電子資料
	4回 討論	媒体変換	アジアの古い資料	保存環境
	5回 蔵書の手当	デジタルメディアの保存	本の劣化, 図書館保存部門見学	セキュリティ, 本の手当
	6回 状態調査	保存環境	保存計画, 職員と利用者の教育	防災計画
	7回 紙の資料の構造と劣化	保護の技術	防災計画	修復
	8回 マルチメディアの構造と劣化	資料保護, 脱酸化	保存スペース	媒体変換
	9回 見学	状態調査	媒体変換	媒体変換
	10回 蔵書調査の実習	課題の発表	音声映像資料	デジタル資料保存, メタデータ
	11回 防災計画	課題の発表	課題の発表	デジタル資料保存, レポジトリ
	12回 防災計画の実習	試験	課題の発表	状態調査
	13回 見学		課題の発表	保存方針
	14回 媒体変換		資料保存専門職	見学
	15回 保存計画の立案		写真の保存	

表 2 に、詳しいシラバスのある 4 課程の資料保存科目を例示した。一見すると課程、担当者による違いが大きいように見えるが、実際には共通点が多い。

各回の授業内容を『IFLA 図書館資料の予防的保存対策の原則』⁹⁾ の構成要素である

- 1 セキュリティ
- 2 防災計画
- 3 保存環境
- 4 伝統的な図書館資料
- 5 写真およびフィルム媒体資料
- 6 音声・画像資料
- 7 媒体変換

と照らし合わせると、ほぼこれらは網羅されていることがわかる。なお、建物や書庫、デジタル資料の保存、状態調査、保存計画は、例示したシラバスにあがっているが、IFLA の原則にはない。

授業内容に共通点は多いが、教える順序は異なっている。順序には担当者の考え方や授業の事情が反映される。米国の授業形態では、受講生が与えられた課題を調べて発表することや、討論を行うことが重視され、これらが授業計画に組み込まれる。資料保存教育の場合は、その上に図書館や保存施設の見学、実習あるいは実験室を使った授業、専門家を招いての授業などがあり、授業の順序を決めるには調整が必要になる。

なお、米国で、資料保存科目の教科書としてよく用いられているのは、バンクス¹⁰⁾ やヒギンボウサム¹¹⁾ の本、ノースイースト文書保存

修復センター (Northeast Document Conservation Center: NEDCC) のリーフレット¹²⁾ であるが、IFLA の原則が使われることは少ない。

5. おわりに

米国の図書館情報学課程では、資料保存科目は、テクニカルサービス関連科目として、ほとんどの課程で設置されている標準的な科目である。資料保存科目のシラバスをみると、資料保存は、分野や領域というほどではないが、ある程度の大きさを持った独立した主題であり、共通の体系化された授業内容を持っており、少なくとも一学期を使った授業が必要であることがわかる。

課程により授業の順序は異なるものの、受講生の関心と得られた知識の段階的集積という面からみて、一般的には、紙や本の保存から媒体変換、デジタル資料へ、資料保存の実務から保存計画など運営関連事項へという軸がみられる。

シラバスには前述のように各回毎に、数点の必読文献が掲載されているが、あげられている必読文献は、本や雑誌論文よりウェブサイトが多数となりつつある点は、情報源の転換として興味深いことである。

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金 15H02786 (『「図書館資料保存論」に関する基礎的研究』(研究代表者 小島浩之)) の助成を受けたものです。

(うえだ しゅういち: 立教大学文学部特任教授)

¹⁾ 司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目一覧. http://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/005/1263234.htm (参照: 2016-03-01, 以下同じ)

²⁾ 「司書養成科目開講大学一覧」(平成 27 年 9 月 1 日現在) 212 大学. http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gaku/04040502.htm

³⁾ 「シラバス」とは. http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/003.htm

- 4) Directory of ALA-Accredited and Candidate Programs in Library and Information Studies. <http://www.ala.org/accreditedprograms/directory>
- 5) 2015 Standards for Accreditation of Master's Programs in Library and Information Studies. http://www.ala.org/accreditedprograms/sites/ala.org.accreditedprograms/files/content/standards/Standards_2015_adopted_02-02-15.pdf
- 6) iSchools. <http://ischools.org/>
- 7) Preservation Education Directory. <http://www.ala.org/alcts/resources/preservation/educationdirectorygradcourses>
- 8) Preservation Education Directory 10th Edition. <https://alair.ala.org/handle/11213/808>
- 9) エドワード・P.アドコック編, 国立国会図書館訳. 木部徹監修. IFLA 図書館資料の予防的保存対策の原則. 日本図書館協会, 2003. 155p.
- 10) Banks, Paul N., Pilette, Roberta eds, *Preservation: Issues and Planning*. Chicago, American Library Association, 2000. 360p.
- 11) Higginbotham, Barbra Buckner, Wild, Judith W. *The Preservation Program Blueprint*. Chicago, American Library Association, 2001. 151p.
- 12) NEDCC Preservation Leaflets. <https://www.nedcc.org/free-resources/preservation-leaflets/overview>